

かっただかもしれないね」と父は言いました。
父はこの病院のことをいろいろ話してくれ
ました。祖父が住んでいるような農村は人口
が少ないから設備の整っている民間の病院が
ないこと、高齢者が多いのでこれからは心臓
や脳の病気の人が多くなること、一つ一つ説
明をしてくれました。
父は「田舎だから少しくらい不便なのは仕
方がないよ。でも、設備の整った病院がなく
て人の命が失われてはならないんだ」そも
話してくれました。「将来、税金が高くなる
との報道を見聞きすると『やれやれ』と感じ
たが、祖父が助かったのも、税金で作られた
病院が近くにあったからと思うと納税につ
いて考え直さないといけないな」と、父は言
いました。
祖父の入院をきっかけに、ぼくも税金につ
いて考えてみました。
もし、みんなが「税金を払うのをいやだ」
「もっと安くしてほしい」と言ったら、祖父

が治療を受けた県立の病院はできなかつたで
しょう。遠くの病院に運ばれる間に、最悪の
事態になっていたかもしれない。病院がで
きる前に祖父と同じ病気になった人の中には
大きな病院に着くまでに亡くなった人もいた
かもしれない。みんなからお金を少しずつ集めて、この病
院はできました。一人一人の力が合わさって、
一人の命を救いました。ぼくの父やお母さん
が納めた税金で作られた病院で、知らないだ
れかの命が助けられていくかもしれない。
会ったこともない人たちが一緒になって社会
を支え合う仕組み、それが税金なのだとか
りました。

税金についてまだ知らないことがたく
さんあります。でも、今回のことをきっかけ
にもっと税金について勉強したいと思いまし
た。そして大人になったら、みんなが助け合
う社会の一員としてきちんと税金を納める人
間になろうと思います。